

## 令和4年度第1回「生徒による授業評価」集計結果について

令和4年7月、本校生徒に対し「生徒による授業評価」を実施しましたので、結果を報告いたします。

## 1 授業評価の概要と結果

## (1) 評価項目

大項目	設問	小項目
ついでに授業の在り方に	1	毎時間の授業や単元のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元（内容のまとめ）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	3	単元（内容のまとめ）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学習の状況について	4	授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。

## (2) 評価

(1) の項目について次の4段階で評価を行った。

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 4 かなり当てはまる   | 3 ほぼ当てはまる     |
| 2 あまり当てはまらない | 1 ほとんど当てはまらない |

## (3) 集計と処理

教科ごとに集計を行い、小項目の評価が「4 かなり当てはまる」の割合を算出した。教科ごとに「4 かなり当てはまる」の割合が最も高い項目には塗りつぶし太字、最も低い項目には下線斜字で明示した。

## (4) 各教科の小項目の評価「4 かなり当てはまる」の割合

設問	国語	地歴・公民	数学	理科	保育	芸術	外国語	家庭
1	24.8%	24.7%	23.7%	28.6%	31.0%	<b>45.6%</b>	<u>25.3%</u>	18.7%
2	<b>35.5%</b>	25.1%	18.9%	28.8%	33.2%	42.0%	27.6%	22.3%
3	31.4%	23.7%	25.1%	30.9%	<b>37.5%</b>	39.7%	28.3%	20.8%
4	<u>24.4%</u>	23.1%	<b>28.2%</b>	29.9%	35.2%	40.3%	28.4%	<b>22.6%</b>
5	33.5%	<u>22.4%</u>	<u>18.6%</u>	<u>26.5%</u>	<u>31.0%</u>	40.3%	25.6%	21.6%
6	26.6%	24.2%	21.2%	28.5%	33.4%	34.7%	27.1%	<u>18.4%</u>
7	25.9%	<b>30.2%</b>	24.0%	<b>31.0%</b>	<u>31.0%</u>	<u>33.6%</u>	<b>29.8%</b>	20.8%

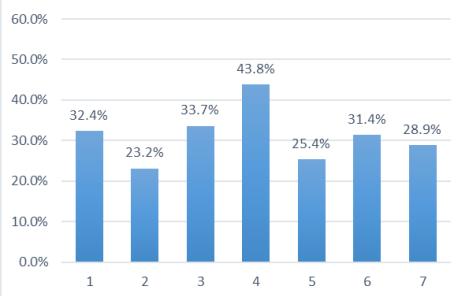
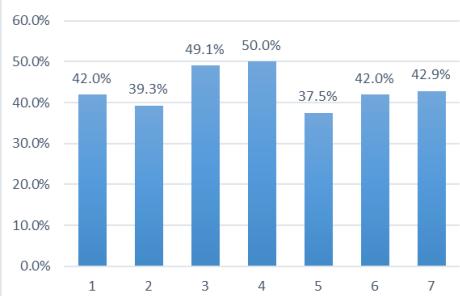
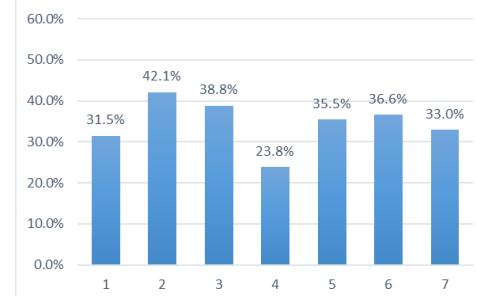
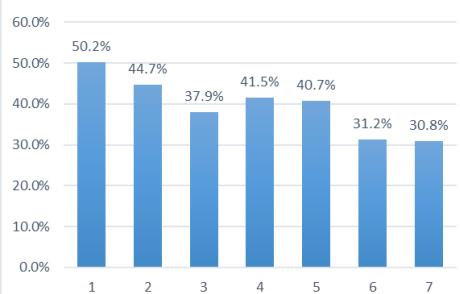
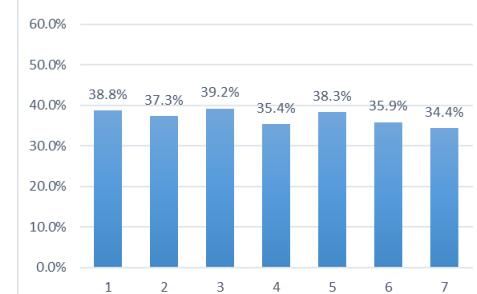
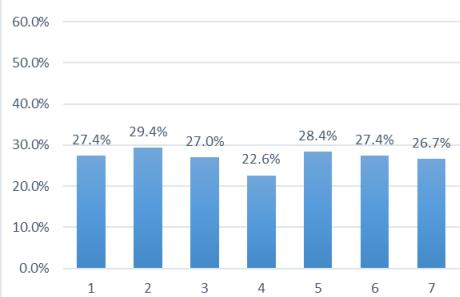
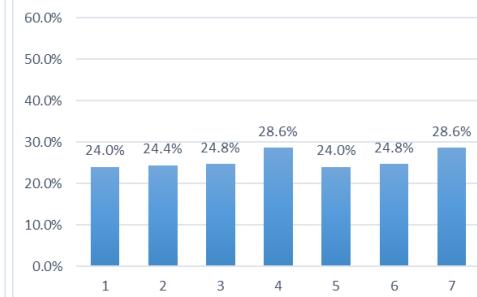
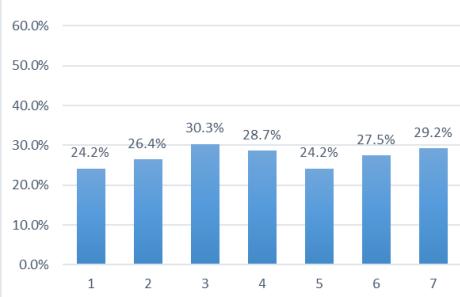
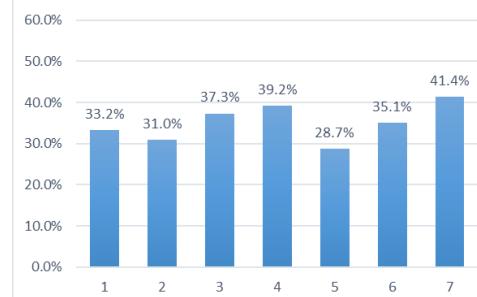
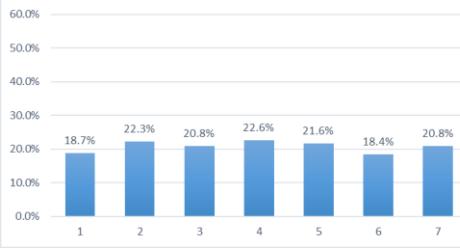
※塗りつぶし太字は教科内で割合の最も高いもの、斜字下線は最も低いものを示す。

## 各教科の分析と改善の手立て

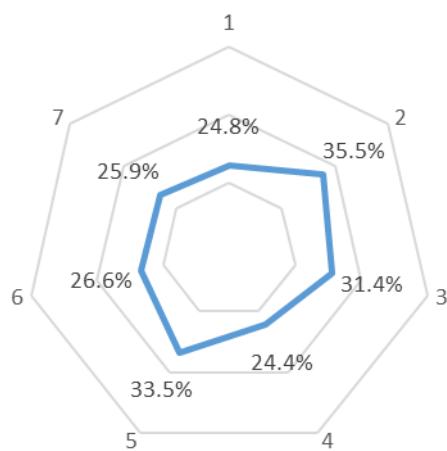
	分析	改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>設問2の割合が35.5%と最も高くなっている。授業において、他者の考えを知り、自らの考えの深化に活かす活動が設定できていることの結果であると考える。</li> <li>設問4が24.4%と低くなっている。これは、設問1の割合の低さ(24.8%)が影響していると考える。授業の中で、ねらいの提示や振り返りの時間が不足しており、知識が身についたかどうかを実感することが難しい環境であったと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごと、授業毎において、ねらいの提示や授業の振り返りを確実に行うことによって、その単元、授業にできるようになったことや身についた知識を実感させられるようにする。また、内容に関する意見を表現する活動や、問題演習によって、生徒の思考力、判断力、表現力の定着・伸長を促進する。</li> <li>生徒が自らの考えを表現・共有する時間を確保し、他者との協働的な学びの中で、自らの考えの深化につながる機会を充実させる。</li> </ul>
地歴 公民	<ul style="list-style-type: none"> <li>設問7の数値が高い傾向にあるのは、知識が階層的に積り、因果関係として現在につながっていくことを学ぶという、地歴公民の重要な目的にかなった授業ができている結果だと考えられる。</li> <li>設問3・4の数値が低い傾向にあるのは、社会科特有といえる、授業内で教えるべき知識量の多さに授業時間を割かれてしまい、振り返りの時間が不足してしまっている結果だと考えられる。</li> <li>設問5の数値が低い傾向にあるのは、グループワークなどの機会が少ないことに起因するものだと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>classroomやgoogle formなどを活用することにより、振り返りや演習の時間を授業外でも確保できるようにすると共に、教員のチェックの手間を効率化する。</li> <li>短時間でのペアワークを多用することにより、授業時間を圧迫せずに他者の考えを知る機会を設ける。</li> <li>classroomやgoogle formなどを活用して意見を発表させることにより、時間をかけずに、グループワークよりも多くの人の意見を知ることができるようにする。また、小テストもこの方法で実施することで、生徒が「できるようになったことを実感する」機会を作る。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>設問2と設問5の項目がとりわけ低い数値が出ている。教員の多くが生徒がお互いに自分の解法等を話し合う時間を設けているものの、考えられることとして、解答が終わっている生徒でも自分の解答に自信がなく、他者に自分の考えを紹介出来ないことが原因だと考えられる。これにより設問5の他者の考えを知る機会が増えていないことにつながっているのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えが正解かどうかは問題ではなく、他者の考えから新たな発見や考え方が浮かぶことは多くあるため、正解にこだわらず互いに自分の考えを伝えられるよう指導したい。</li> <li>また、現在の共通テスト等は、自分の解法での解答ではなく、他者の考え方について誘導的に考えさせる問題もあるので、これを通して機会を設けていきたい。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>設問7の割合が高く、前後の内容と関連付けて理解することができている。逆に設問5の割合は低く、答えが一つに定まらず、様々な考え方ができるような課題に取り組む機会が少ない懸念がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境、エネルギーなど学習内容に関連した時事問題を取り上げ、自らの考えを発表したり他者の考えを聞いたりする取り組みを検討する。</li> </ul>
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>設問5(他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた)が低い割合になっている。しかし設問2(他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある)、設問3(課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある)の数値は高い数字となっている。</li> </ul> <p>このことから授業内で他者の考えを知ることにより新たな考え方を知る機会は設定できており、生徒も効果を実感できているように思われる。しかしその活動から自らの考えを広げ深めることに課題があると思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きペアワークやグループワークを行い、他者の考えを知ることにより新たな考え方を知る機会を設定していく。(新型コロナウィルス感染症対策を講じながら)</li> <li>またペアワークやグループワークの活動の後に振り返りやまとめの時間を設け、その活動から自らの考えを広げ深めることに繋げていく。</li> </ul>
芸術	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての項目において肯定的な評価の割合が高く、特に設問1は半数近い生徒から「かなり当てはまる」の評価を得られた。</li> <li>設問7は他の設問と比較して「かなり当てはまる」の割合が低くなっている。これは、授業の中で扱う題材が変わると、過去の題材とのつながりを感じづらいためであると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のねらいの明確な提示と学習内容の振り返りを今後も継続して行う。</li> <li>設問1の学習のねらいの提示や学習の振り返りが行われていることへの評価は高いので、その際に学習内容のつながりについても触れるようになる。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>設問1「授業のねらいを示す」「振り返る機会がある」について、「かなりあてはまる」の割合が低い。</li> <li>設問7「学んだことを関連付けて理解する」について、「かなりあてはまる」の割合が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用教材やワークシートに、当該項目を入れたり板書をしたりして、確実にねらいの提示や振り返りを行い、生徒に学習内容を実感させられるようにする。</li> <li>各授業において、深い理解をさせるような工夫がみられるので、教科内でも声掛けをして、共有していく。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての質問において4「かなり当てはまる」割合が他教科に比べると低い傾向にあるが、3「ほぼ当てはまる」を含めると、8割の生徒が肯定的であることがわかった。2時間連続授業のため、毎時間、知識を学習する時間とグループワークの時間を設けているためと考えられる</li> <li>設問1の「授業はじめのねらいを示したり振り返りをする」、設問6「自分の考えをまとめたり課題解決方法を考える」については、低い傾向にあることが分かった。</li> <li>自由記述では、意見交換の場やスライド提示を継続してほしいという好意的な意見がある反面、実習室での教員の声が後方生徒まで届いていない、進度が早い、スライドの文字が見えにくいという意見がみられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての項目において2割の生徒が「あまり当てはまらない」「ほとんど当てはまらない」と回答していることから、一人ひとりに目を向け丁寧な授業と改善を心掛ける。</li> <li>アンケート実施期間が30分授業であったことと、実習中だったため省略していたが、今後は、確実に学習内容やねらいを提示し、授業の振り返りの時間を確実に確保し実施することで、その時間の内容理解を深めさせたい。</li> <li>スライドの文字の大きさや色などの改善と広い教室での指示が全ての生徒に行き渡るよう留意する。</li> <li>実習やグループワークの授業は今後も継続し実践力を身につけさせていく。座学では教科書の内容を伝えているだけと感じている生徒もいることから、授業内容を改善する。</li> </ul>

## 2 科目別・項目別評価「4 かなり当てはまる」の割合 (各学年必修科目のみ記載)

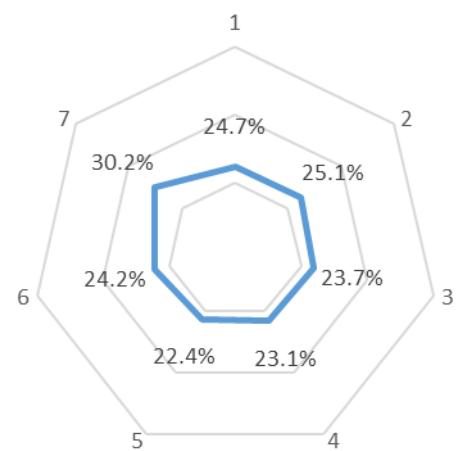


**体育（2年生）****体育（3年生）****保健（1年生）****保健（2年生）****芸術 I****芸術 II****英語コミュニケーション I****コミュニケーション英語 II****論理・表現 I****コミュニケーション英語 III****英語表現 II (2年生)****英語表現 II (3年生)****家庭科**

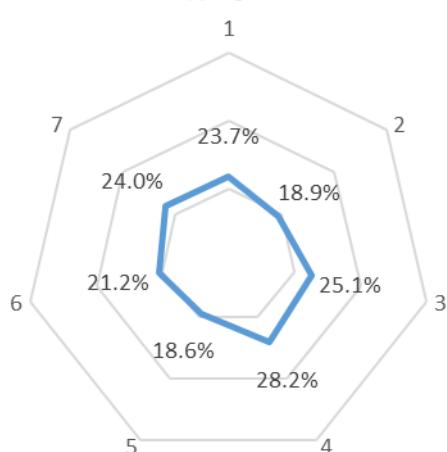
国語



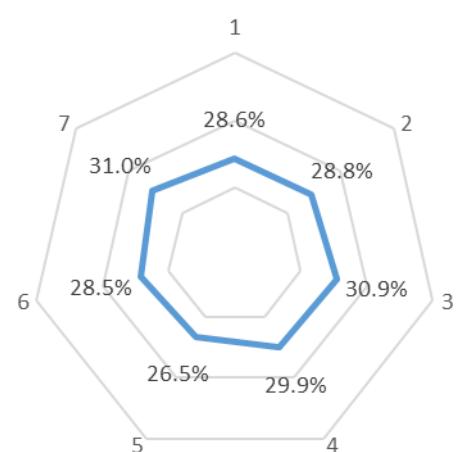
地歴・公民



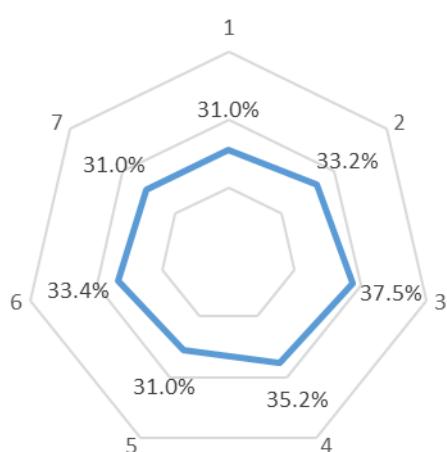
数学



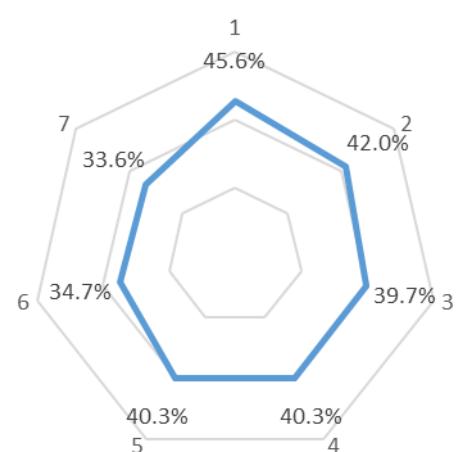
理科



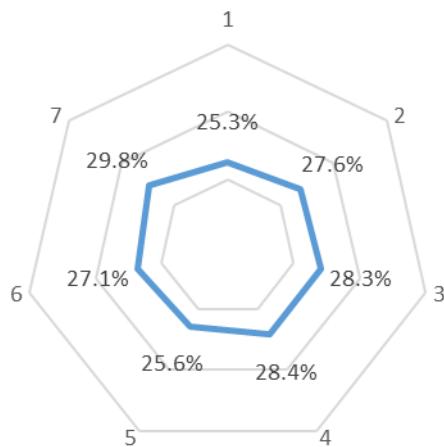
保健・体育



芸術



外国語



家庭

